

独立行政法人大学評価・学位授与機構運営委員会(第13回) 議事要旨

1. 日 時 平成19年6月12日(火) 15:30~17:30
 2. 場 所 学術総合センター1112会議室
 3. 出席者 木村会長、岡田、荻上、上條、高坂、島田、橋本、濱田、西村、六車、
米山の各運営委員
(阿知波、猪木、岡澤、北原、中島、檜崎、安原、山本
の各委員は委任状提出)
木村機構長、山本理事、山野井監事、後藤管理部長、
加藤評価事業部長、ほか機構関係者
 4. 第12回運営委員会議事要旨について
確定版として配付された。
 5. 議事
 - (1) 平成19年度年度計画について
文部科学大臣へ届け出た平成19年度年度計画について報告が行われた。
 - (2) 国立大学教育研究評価委員会委員の選考について
国立大学教育研究評価委員会委員1名の辞任にともなう後任委員の選考について審議が行われ、原案どおり承認された。また、運営委員会の推薦を受けた者として評議員会に諮ることとされた。
 - (3) 会長一任による各種委員会委員等の追加発令について
大学機関別認証評価委員会委員1名、短期大学機関別認証評価委員会委員1名、大学機関別認証評価委員会専門委員9名、高等専門学校機関別認証評価委員会専門委員1名、法科大学院認証評価委員会専門委員1名及び学位審査会専門委員3名の辞任等にもなう会長一任による委員の追加発令について報告があった。また、欠員補充などの場合については、従来と同様に運営委員会会長に一任することとされた。
 - (4) 外部検証について
平成19年度に実施する外部検証に係る委員会規則等について審議が行われ、各委員の意見を反映し、評議員会に諮ることとされた。
- (○: 運営委員 ●: 事務局 以下同じ)

- 「検証」という言葉は、認証評価が正しく行われているか、学位授与が厳正に行われているかというニュアンスにとられる。中期計画で認証評価を実施校数や学位授与数を立てているのではないから、評価の基準とはならないのではないか。
- 認証評価については年度が終わった時点で、評価を受けた大学等および評価委員にアンケート調査を行い、当該年度実施した評価がどうであったか、評価結果が当該大学等の改善に結びついたか、評価基準そのものを見直す必要があるかなどを検証している。また、学位授与については、学位を授与した時点で学位取得者に、審査委員にはお辞めになるときに、アンケート調査を行って検証しているのです、こういう表現になっている。
- 評価結果の表し方としては、認証評価も学位授与も数値目標を立てているのではないので「中期計画を上回るペースで実績を上げている」というのは違うのではないか。
- 各大学等から機構の認証評価をどのように活用したかという意見をもらっており、初年度はあまり芳しくない反応だったが、3年度目になると非常に積極的な意見が増えた。また、学位授与者からも非常に良かったというような意見がある。それらについて、自己点検・評価の中で「特に優れている」と判断することもあり得ると考えている。委員のご意見のとおり数値的なことは目標として立てられないが、質的に業務として非常に優れていた場合には、そういう判断もあり得ると考えている。
- 「上回るペース」という言葉が量的にとらえられるのではないか。
- 「中期目標を上回る実績」という表現が良いのではないか。
- 「特に優れた」と「優れた」の違いについて、基準を実施要項として書いておくのか、あるいは各委員の判断に委ねるのか。また、「A+」は必要なのか。
- 第2期中期目標・中期計画を定める際に「A+」の項目は積極的に推進したい事業としたいと考えている。
- 「A+」はもっと伸ばしていくよい面を評価するために設けてあり、そういうものがなければ付けなくてもよいということを、内規で定めないと曖昧である。
- 評定の区分について、「A+」は特に優れたということで早々に年度計画を達成しているぐらいのイメージなのか。
- そういうことである。
- ご意見をいただいたので、文言等を整理した上で評議員会に諮ることとする。

(5) 平成18事業年度業務実績報告書等について

平成18事業年度業務実績報告書等について審議が行われ、原案どおり承認された。また、今後修正がある場合は機構長に一任されることとされた。

- 自己評定は「A」だけだが、今の状態でも十分満足できるので追加は必要ないと読まれることはないか。強化したいところは自己評価をBにしたほうが良いのではないか。改善する余地があれば何らかの形で自己評価の中に入れておかないと、もうあまり何もしなくて良いとならないか懸念である。

- 委員の指摘はもともとだが、現状の独立行政法人の評価とそれに対する措置は、例えば人員不足のために十分できていないからBとしても人員を増やしてくれるようには働いていない。予算も人員も削られている中で精一杯やっているという自己評価だと考えてもらいたい。
- 「評価結果について検証を行った結果を社会に向かってどのように発信していくか」について、中期目標・中期計画期間において外部検証を行うことも入るのではないか。
- 対応状況は18年度に行った事項をまとめたものであり、外部検証は19、20年度に行っていく。
- ご意見をいただいたので、修正する場合は機構長に一任させていただく。

(6) 平成18事業年度財務諸表等について

平成18事業年度財務諸表等について審議が行われ、原案どおり承認された。

(7) 評価事業及び学位授与事業について

評価事業及び学位授与事業の実施状況について報告が行われた。

(8) その他

議事の終了にあたり、次のような意見交換が行われた。

- 今回は事務局の説明に時間がかかり、意見交換の時間が少なくなってしまったのが残念だ。
- 大事な事項なので詳しく説明するように指示したところ予想以上に時間がかかってしまった。次回からは意見交換の時間を十分に確保できるようにしたい。
- 「旅行命令内訳」という書類が置いてあるが、「命令」という言葉はいかかなものか。
- 国の規則を基にしている「寄附願い」や「旅行命令」などは評判が悪い。
- 変えるべき点は変えるよう努力したい。

6. 次回の運営委員会は、機構の事業の進捗状況をみて開催することとし、日程については、後日事務局より連絡することとされた。

以上